

# 「健やか親子21」次期計画策定に向けて

# 「健やか親子21」の次期計画の検討の視点(案)

○これまでの母子保健の取組や、現在の取組状況等を踏まえ、今後10年間を見据えた計画を策定する

＜次期計画の構成のイメージ＞

- ・今まで努力したが達成（改善）できなかったもの（例：思春期保健対策）
- ・今後も引き続き維持していく必要があるもの（例：小児救急、小児在宅医療）
- ・21世紀の新たな課題として取り組む必要のあるもの（例：児童虐待防止対策、情報を活用する力の育成）
- ・改善したが、「健やか親子21」の指標から外して取組を止めたら、悪化する可能性のあるもの（例：喫煙対策）

○次期計画の策定にあたっては、期間ごとに段階的な達成目標を具体的に設定する

- ・健康日本21（第二次）と同様に10年間を計画期間とする。
- ・10年後の最終的な目標を定めるとともに、5年後を1つの目安とし、中間評価までの短期的な目標を設定する。
- ・向こう20年を目安とした長期的な目標設定についても検討してはどうか。  
（次世代が成人に達する時期を目安とし、今から取組を始める必要のある課題等）

○現在の指標を整理し、見直しを行う

- ・現在の指標について、達成状況や現状を踏まえ、見直すこととしてはどうか。
- ・優先的な取組が必要な指標や、指標相互の関係性についても整理することとする。
- ・新たな母子保健に関する課題等も踏まえた指標も検討する。
- ・なるべく、最終的な統計指標であるアウトカム指標に絞り込む。
- ・行政・関連団体における環境整備等の指標は、最小限とする。

○指標は、大きく次の3つカテゴリーを念頭に置きながら、整理する。

- ・アウトカム指標
  - ・アウトプット指標
  - ・プロセス指標
- ※アウトカム指標が設定できない場合には、アウトプット指標やプロセス指標を検討する。  
※プロセス指標は、国が取組を例示し、地方公共団体が地域の特性に応じて選択できるようにしてはどうか。

○地方公共団体において、計画立案や実施、評価する際の具体的なプロセス等を自ら確認できるための項目等を整理し、提示することで、円滑な取組が行われるよう支援する。

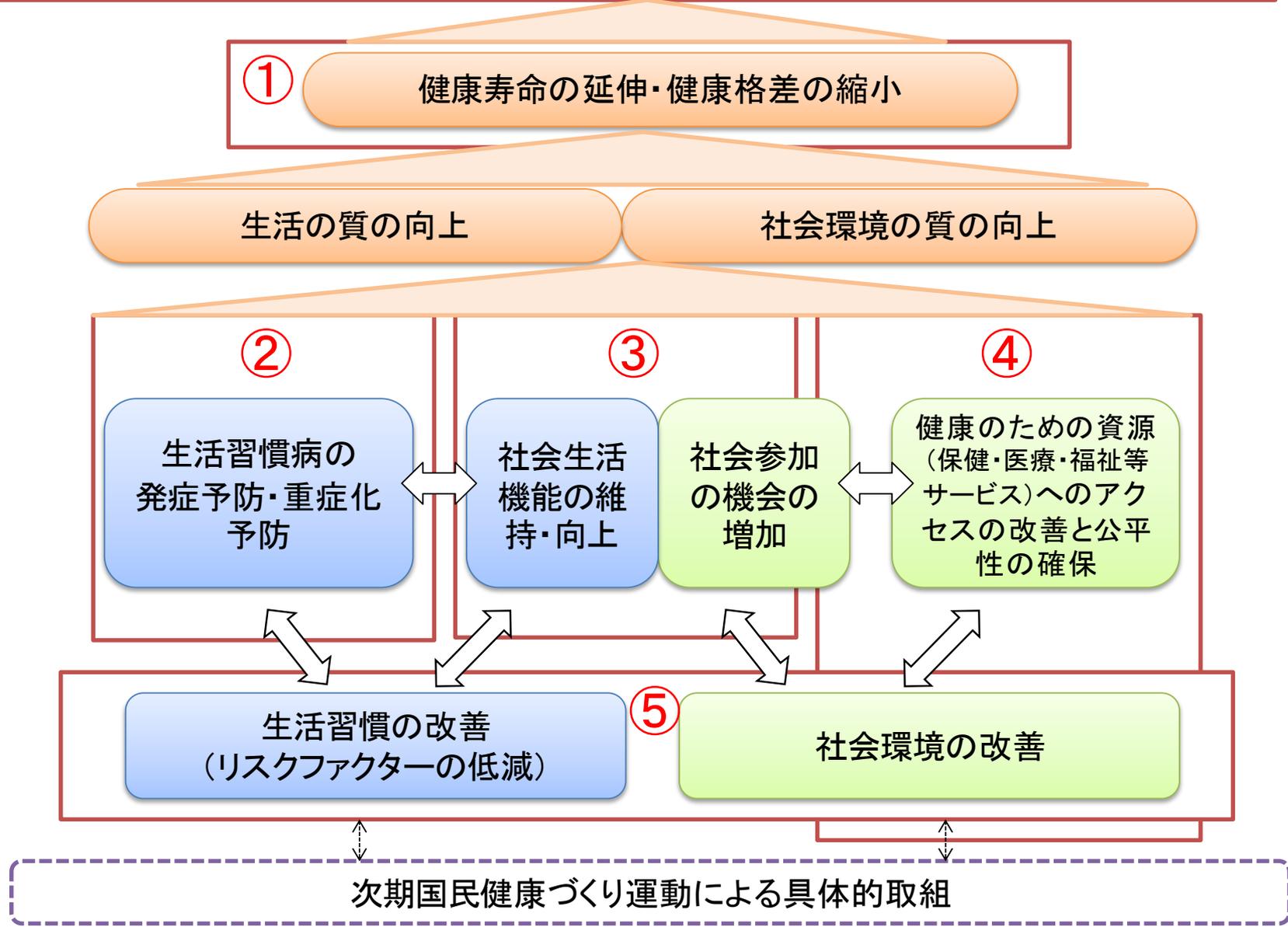
## (参考)国民運動計画の概要

	健康日本21	健康日本21(第二次)	健やか親子21
目指すべき姿	<p>(目的)</p> <p>すべての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とするため、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質の向上を実現すること</p>	<p>全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会</p>	<p>安心して子どもを産み、ゆとりを持って健やかに育てるための家庭や地域の環境づくりという少子化対策としての意義と、少子・高齢社会において国民が健康で元気に生活できる社会の実現を図るための国民健康づくり運動である「健康日本21」の一翼を担う</p>
基本的な方向	<p>(基本方針)</p> <p>①一次予防の重視</p> <p>②健康づくり支援のための環境整備</p> <p>③目標等の設定と評価</p> <p>④多様な実施主体による連携のとれた効果的な運動の推進</p>	<p>①健康寿命の延伸と健康格差の縮小</p> <p>②主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防</p> <p>③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上</p> <p>④健康を支え、守るための社会環境の整備</p> <p>⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善</p>	<p>①思春期の保健対策の強化と健康教育の推進</p> <p>②妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援</p> <p>③小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備</p> <p>④子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減</p>

# (参考) 健康日本21(第二次)の概念図

健康日本21(第二次)参考資料スライド集より

全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現



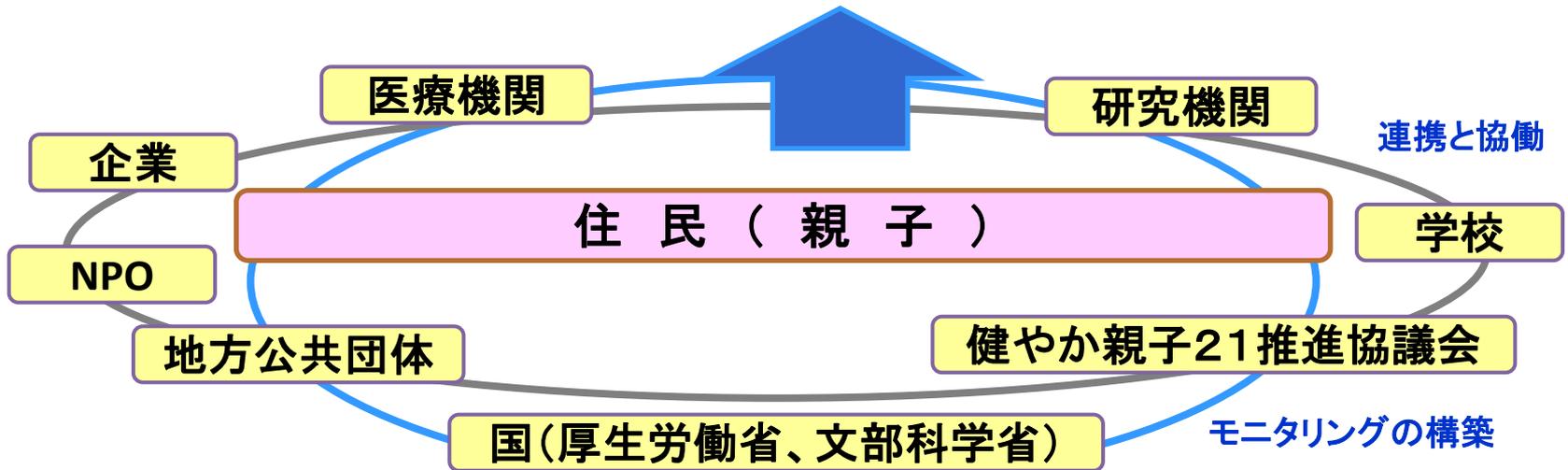
(参考)



# 「健やか親子21」の推進(2006～2014年)について

## 21世紀初頭における母子保健の国民運動計画(2001～2014年)

課題	①思春期の保健対策の強化と健康教育の推進	②妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援	③小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備	④子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減
主な目標 (2014年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○十代の自殺率 (減少傾向へ)</li> <li>○十代の人工妊娠中絶実施率 (減少傾向へ)</li> <li>○十代の性感染症罹患率 (減少傾向へ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○妊産婦死亡率 (半減)</li> <li>○産後うつ病の発生率 (減少傾向へ)</li> <li>○産婦人科医、助産師の数 (増加傾向へ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全出生数中の低出生体重児の割合 (減少傾向へ)</li> <li>○不慮の事故死亡率 (増加傾向へ)</li> <li>○妊娠中の喫煙率、育児期間中の両親の自宅での喫煙率 (増加傾向へ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○虐待による死亡数 (減少傾向へ)</li> <li>○出産後1ヶ月時の母乳育児の割合 (増加傾向へ)</li> <li>○親子の心の問題に対応できる技術を持った小児科医の割合 (増加傾向へ)</li> </ul>
親子	応援期 思春期	妊産婦期～産じょく期 胎児期～新生児期	育児期 新生児期～乳幼児期～小児期	妊産婦期～産じょく期 胎児期～新生児期



「健やか親子21」最終評価報告書でまとめられた  
今後の課題と次期計画に向けた提言の柱

A  
思春期保健対策  
の充実

B  
周産期・小児  
医療・小児在宅  
医療の充実

C  
母子保健事業間  
の有機的な連携  
体制の強化

D  
安心した育児と  
子どもの健やかな  
成長を支える地域  
の支援体制づくり

E  
「育てにくさ」を  
感じる親に  
寄り添う支援

F  
児童虐待防止  
対策の更なる充実